



2019年2月1日

各位

会社名 株式会社ジョイフル本田
 代表者名 代表取締役社長 矢口 幸夫
 (コード番号 3191 東証第一部)
 問合せ先 常務取締役 管理本部長 吉原 悟郎
 (電話番号 029-822-2215)

**2019年6月期第2四半期累計期間の連結業績予想との差異及び
 通期連結業績予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ**

2018年8月3日に公表しました2019年6月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績値との差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、通期連結業績予想の修正並びに特別損失の計上につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2019年6月期第2四半期累計期間における連結業績予想と実績値との差異
 (2018年6月21日～2018年12月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	76,370	4,328	4,833	2,961	42.77
実績値 (B)	74,892	4,190	4,863	1,504	21.74
増減額 (B-A)	△1,477	△137	30	△1,456	—
増減率 (%)	△1.9	△3.2	0.6	△49.2	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2018年6月期第2四半期)	74,695	4,163	4,456	2,788	36.52

(注) 当社は、2018年6月21日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度(2018年6月期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 2019年6月期通期連結業績予想の修正
 (2018年6月21日～2019年6月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	152,200	8,390	9,320	5,800	83.78
今回修正予想 (B)	149,560	8,300	9,460	4,360	62.98
増減額 (B-A)	△2,640	△90	140	△1,440	—
増減率 (%)	△1.7	△1.1	1.5	△24.8	—
(ご参考) 前期実績 (2018年6月期)	148,676	7,981	8,800	5,594	76.85

(注) 当社は、2018年6月21日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度(2018年6月期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 業績予想との差異及び通期業績予想の修正理由

(1) 2019年6月期第2四半期累計期間における連結業績予想との差異の理由

売上高につきましては、既存店はほぼ予想通りに推移したものの、2018年4月にリニューアルオープンした千葉店が計画を下回ったこと、また、天候不順や競争激化なども影響し、前回予想を下回りました。また、経費削減施策により販管費は計画以上に削減できたものの、売上高の計画未達による売上総利益の未達分を補うまでには至らず、営業利益は前回予想を下回りました。

経常利益は、営業外収益の増加等でほぼ予想通りであった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別損失の計上(下記4. 特別損失の計上)により、前回予想を下回りました。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

通期連結業績予想につきましては、第2四半期累計期間及び近況の業績の推移を勘案し、また、下期の経費計画を見直した結果、前回予想を修正することといたしました。

なお、2019年6月期の配当につきましては、当初の計画通り1株当たり25円(中間12.5円、期末12.5円)を予定しております。

4. 特別損失の計上

固定資産の減損に係る会計基準に基づき、収益性が低下している店舗(千葉店)の今後の売上計画を精査し、回収可能性を検討した結果、固定資産に対する減損損失2,472百万円を特別損失に計上しました。

※上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

以上